

地震を乗り越え、未来へつなぐ。

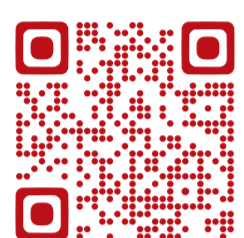
江田船山古墳 石棺の復旧

平成28年熊本地震および平成31年1月の地震(震源地:和水町)による被災^{※1}を受け、
未来に向けてどのように石棺を守るのか—令和8年3月に完了した復旧事業の歩みを解説します。

※1 震度6弱2回、5弱2回

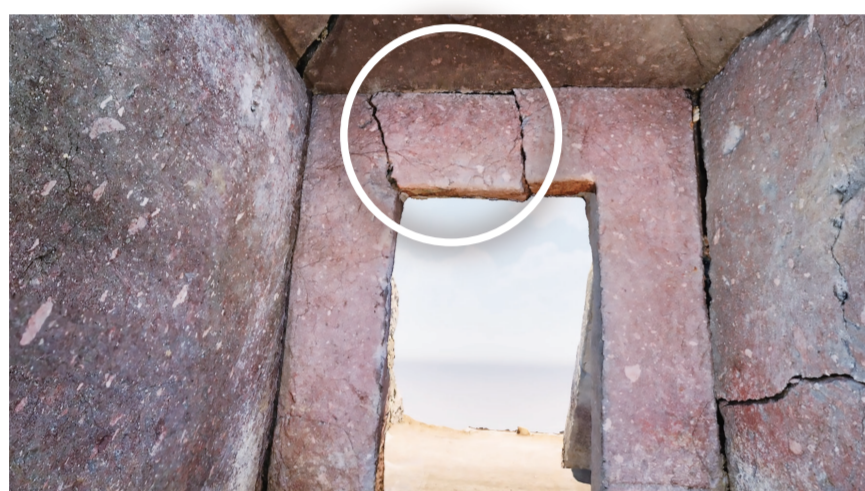
地震の爪痕 – 石棺に何が起きたのか?

石棺のいたるところに、深刻な損傷が確認されました。



被害の詳しい状況を
動画でご覧いただけます。

▼ 写真はいずれも石棺内部から撮影



入口の石材

入口上の石材が割れ、
かろうじて落下を免れた
危うい状態でした。



三角の蓋石

もともと一枚の巨大な
石でしたが、激しい揺れ
で4つに割れています。



左側の壁

真ん中の高さで上下に
割れ、上側が外に倒れ
込みながら蓋石をかる
うじて支えています。

石棺の動きをガード!



踏ん張る力

石棺の周りに発泡スチロールや砂
を詰め、石材が動かないよう固定し
ました。今後の地震等の揺れで側
壁材が割れないように、詰める高さ
を以前より高く設定しています。表
面には土を貼った化粧材を使い、
自然な見た目も大切にしました。

4 補強作業

充填材をここまで高く!



揺れを最小限に!

支える骨組み

地震の揺れから石材を守るた
め、石棺の内側に専用の補強フレ
ームを設置しました。内部の形にぴ
たり合わせたフレーム^{※2}が、万が一
の際も石材の動きを最小限に抑え
ます。

※2 石棺内部にぬられた赤色を守るため、フレームは
石棺から少し離して設置しています。

復旧のプロセス – 科学的調査と補強

石棺を“直す”のではなく、“今の状態を維持し、これ
以上の悪化を防ぐ”方針で復旧を行いました。

1 応急処置



被災直後には、石材が倒れてこれ以上被
害が広がらないように、石棺の外側を土
のうで押さえました。

2 3次元レーザー計測・オルソ画像

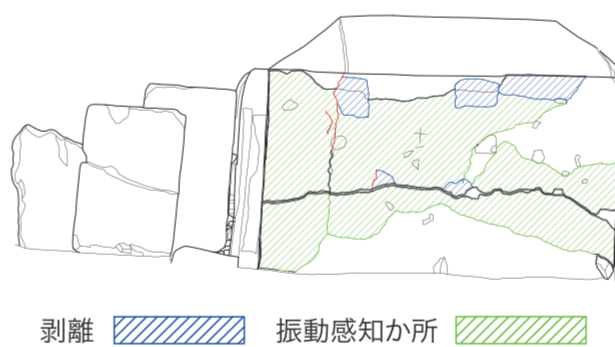
左側壁



立体としてミリ単位で記録できる最
新の3次元レーザー計測と、ゆがみ
のない正確なサイズと位置情報で
被害箇所を記録できるオルソ画像
を作成。今の姿を精密に写し取り、
復旧のための基礎資料としました。

3 石棺石材詳細調査

左側壁



石を叩いて内部の空洞やヒビを探
る打音調査や石材各所の強度調査
を行い、外からは見えない石材内
部の深刻な割れも判明しました。こ
の精密な調査結果を参考に、補強
プランを決定しました。

この貴重な姿を未来へ残すため、私たちは適切な保護に努めていきます。

和水町教育委員会